第四巻 十二月號

婦人運動



職業婦人社發行

大正十二年十一月十三日第三種郵便物認可（毎月一日一回發行）大正十五年十二月九日印刷納本 十二月八日發行——第四巻第十一號



第四卷第十一號

婦人運動

目次







編輯前記

あなたの大正十五年一年間の御感想を聞かせて下さいませんか。

わが職業婦人社ではずつと不便な蒲田に引込んでゐたので、萬事に消極的態度をつゞけて來てしまいました。もう五週年を迎へやうとしてゐるのにこんなに基礎の固まらぬことでは、結局したいと思ふ仕事も、しなければならぬ仕事も出來ないわけだからと、そとに分散され勝ちであつた力を内粋充實の方に努めた一年でありました。

×

實は去年一年、わけて下半季は、社内に併設してゐた婦人職業相談所に持ちこまれて來るいろんな煩はしい問題の解決のために出來るだけのお力添をしてゐたので、だん／＼忙しくなつて、あとには職業婦人社そのものと奥氏の家庭にまでも累が及んで來てどうにも動きのとれない窮乏におひつめられてしまつたのでした。

そのあとをうけた今年の春頃は、可なり苦しい無理をし續けてやりくるのに骨の折れた絶頂でありました。

×

然し、わが「婦人運動」の存在は漸く社會に認められて、至るところで「婦人運動」に書かれてゐるものに就いての批評や、賞讃や註文などを聞くやうになりました。何分にもわが婦人界がもつ唯一つの主義主張をもつ高級な婦人雜誌なのですから。

さき頃も、成女高女校の宮田修先生から「かういふいゝ婦人雜誌が出てゐることを知らなかつたのはまことに迂濶であつた」といふて丁寧な挨拶の手紙に添えて、永久に保存したいと思ふからこれ迄の分を取揃へて送つて呉れるやうにと、金一封を送り越されたことでした。

×

お互ひ様に、新しい元氣で十六年を迎へませう。私たちの仕事も、愈々社會的に要求されるばかりです。お互ひにうんと働きませう。力になり合ひませう。勵みませう。

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部 貳拾五錢（郵税五厘）
半年分 壹圓四拾錢
壹年分 貳圓八拾錢

送金法

送金は振替が一番便利です。
誌代の受取證は別に出しません。
雜誌發送を以てこれに代へます。

大正十五年十二月五日納本
大正十五年十二月八日發行

東京市外中野町囲三二四四
發行編輯兼印刷者 奥むめお
東京市芝區明舟町一番地
印刷所 職業婦人社印刷所
東京市芝區明舟町一番地
發行所 職業婦人社
振替東京六四一六〇番

—巻頭言—

最近新聞紙の傳へる處によれば、澁谷町に住む印刷師某の妻は、出産に際して危險狀態に陷つたので、その夜産婆附添の上赤十字病院、慶應病院、其他の知名の病院を歷訪して淚を流して、懇願したけれど、いづれも滿員の故を以て拒絕された。朝方になつて生命危篤の狀態になつて歸宅し、其後漸くある病院に收容されたといふ。

危險狀態にある病人が、無産者であると云ふことの爲めに、現代醫學の恩惠にあづかる事が出來ない實例は、殆んど數へるひまがないほどであるのであるが、私達はその事實にぶつかるごとに、云ひやうもない悲愴の感に胸を打たれずにはゐられない。まして出産と云ふやうな人類的大きな使命の許にある時に際しても、無産者であると云ふ事の爲めに、常に母と子の二つの生命が現代醫學の恩惠から見放されて危險の狀態にさらされなければならい事實を考へる時に、誰か、現社會の合理的在存に疑ひを差挾はさまないでゐられやう。

子供が生れる、彼は生れると同時に國家の一員としての義務を、社會の一員としての制裁を約束されなければならない。長じて男子なれば兵役の義務を、女子なれば出産育兒の務めを、そして其他凡ゆる直接間接の納稅の義務を、國家に、自治體に負はなければならない。彼は無産者であると云ふ爲めに決してその例外ではある事を許されない。然もその出生に際しては、無産者である爲めに、國家からも、社會からも打捨てられて、生死のキケンに晒されなければならないのである。何といふ不合理のことであらう。

ことし一年の婦人界を回顧す

奥むめお

十五年度最終の「婦人運動」の編輯を終るにあたつて、ことし一年間のわが婦人界の辿り進んだ足跡を顧みたいと思ふ。

今年度の婦人界の振はなかつたこと、實に影のうすい一年であつた、と一部には云つてゐる人もあるやうであるが私は全然さうは思はないでゐる。むしろ今年ほど、明日への新しい機運を孕んでわが婦人界が力強く動きかけた年はなかつただろう、と云つても過言ではあるまいほど意義深い一年であつた筈である。

私は招かれて、地方の婦人界や團體やに出掛ける機會を可なり多くもつのであるが、いつもそんな時にさう思ふ。長い間家庭奴隷として駄馬のやうにたゞ働きつゞけてゐた婦人であるのに、實におどろく程時代の精神が彼女らの眞髄まで浸みこんでゐること、未だ自分自身ではそれと自覺してゐることは少ないにしても、行ふ所作のふしぶしにも、云ふことばの端し〴〵にも新時代の片影を私たちはつねに見るものである。大山郁夫氏も、ある婦人雜誌の卷頭言で、

「……數年前までは、婦人相手の講演と云へば、最も進んだものでも文化問題だとか、婦人問題だとか、若しくは婦人參政權問題だとかの範圍を大體は出なかつたものである。そして一般の社會問題の講演會などでおける婦人の出席は、よし皆無とは云へないまでも甚だ寂寥たるものであつた。……時代に目ざめた婦人たちはも

う數年も前からいつまでも良妻賢母主義のお題目を有がたがつてゐるよりは、むしろ、さうした古びた主義が依然として要求される社會そのものゝ正體を見屆けやうとする方向へ乘出して來たのであつた。

だが今日ではそれ處ではなく、さうした社會の正體を見究めた上で、それに向つて挑戰しやうとしてゐるやうな勇敢な女性の群さへ、もうそろ〳〵形成されつゝあるやうになつて來てゐるのである」

と云つてゐられる。全くその通りである。

×

元來婦人運動が、單獨にそれ自身としていつまでも存續するものでないことは云ふまでもない。よし、今日のやうに社會的にも、政治的にも、慣習的にも、あらゆる方面で婦人の地位が男子のそれと非常なへだたりを持つてゐる限りは、そして、婦人の自覺程度が男子よりは遙かにおくれてゐる限り婦人の側からなされなければならない多くの婦人運動が必要であるとしても、結局は、一つの大きな社會運動として、婦人も男子と共同の戰陣をはつて力を協せて進むべきものである。

この意味で、今年に入つてから勞働組合の間で婦人部に就いての態度が積極的になつたことは注目すべきことである。元來、どの勞働組合でもその內に婦人部を持つてゐるのであるが、その多くは慣例的に置いてゐるといふだけで、婦人部としての立場とか仕事とかに對してはその組合として殆んど意を用ひず、從つていつまで經つても發展の見込みはたゝず、有名無實に終つてゐたのである。ところが、本年四月に開かれた評議會の全國大會で、婦人部存續の問題が大激論の的となつて、この日は三時間に亘る論戰ののちなほ決定をみることが出來ず、つひに一年間保留といふ事になつたのであるが、これが引いて一般勞働組合の婦人に對する態度をどう決定する

かといふ問題の上に大きな暗示を與へたのであつた。

わが國の工場勞働者の六割までが女工である事實から見ても、各勞働組合の指導者級の人たちが婦人部の問題に冷淡であつたことは大きな失敗であつた（現在、勞働組合に組織されてゐる總數二十四萬の内婦人の組合員は僅かに一萬足らず）といはなければならぬ。なほ勞働總同盟が五千の婦人組合員——紡績の女工——を擁して少年及び婦人勞働者の夜業禁止に關する請願運動を今年の二月から初めてゐることは、特筆に値するものであらう。

×

婦人は多く臺所にあつて消費を司るものである。この消費者としての婦人の立場からする解放運動、消費組合の運動が世論の焦點に立つたことも今年に於ける出來事中の大きなものである。生産者としての勞働者に勞働組合があるのに、消費者としての婦人の間に何らの組織聯絡もなく、今のこの資本主義社會の商賣人に搾られ放題でゐるといふことはむしろ驚くべきことである。

勞働婦人、職業婦人は勞働組合へ、

家庭婦人は消費組合へ、

明日からの婦人運動は、この二つの道を兩々相勵ましつゝ進まねばならないのである。本位田祥男氏は前月號の本誌の卷頭言で、『利潤の劍は兩刃である。一方に傭はれ人から掠奪し、他方に消費者から掠奪する。この掠奪あるがために貧富のへだたりは甚だしく、無産階級はたえず生活の不安におそはれてゐる。それは實に、今日のすべての社會的不正の根である。』

と云つてゐられる。まさに、婦人の解放運動もこの兩面から行ふのでなくては決してその期する所の目的をとげることは出來ないのである。

殊に消費の方面は婦人に關係することの大きいものであるだけに、婦人の活動にまつこと頗る多いのであるが、未だわが消費組合の運動には大して婦人の力が加つてをらず、多く男子達の働きで支えられてゐる。わが「婦人運動」が、それらの熱心な男子の消費組合運動者の後援に導かれつゝ婦人の間へこの運動の精神が徹底するやうに努めることになつたのも、たゞにこの小册子の上ばかりでなく、廣く婦人運動の上からみても、意義多いことであつたと云へやう。

わが國の消費組合の運動が、婦人たちの協力に依つて目ざましい發展をとげる日も決して遠いことではないであらうと考へられる。

×

次に職業婦人の運動に言及する必要を感ずるのであるが、まづ思ひ浮べられるのは、今年の初めあの華々しい誕生をした大阪の職業婦人聯盟がどこに行つてしまつたか、といふ嘆聲である。發會式に招かれて行つて、幾多の希望を會員諸氏に傳へ、その後は半ば自分の子のやうな思ひで、しげ〲と大阪に行つて直接間接に聯盟の動きをみてゐた自分としては、感慨ことに深いわけである。

ひとり大阪だけに限らぬが、職業婦人の數はその後も殖える一方であり、職業婦人に關する問題も、いよ〲多種多様に複雜化するばかりであるのに、一と頃あれ程までに世論の中心となつてゐた職業婦人問題が、何故、かうも著しく下火になつたであらうか。私たちの深く省りみて考へてみなければならない問題である。

そして、ひとり大阪の職業婦人聯盟ばかりでなく、近年職業婦人問題の擡頭と共に彼女らの間にいろんな團體や會合が、いろんな形をとつて拵へられたにも拘らず、社會的にも職業婦人自身の生活の上にも、何故、何らの反響をも殘さないであとから〳〵と立消えて行つたであらうか。

思ふに、現在社會であれこれと云はれてゐるところの職業婦人の問題の内容には、多く、何らの新しい社會的存在としての内容を含んでゐないのである。向上とか、修養とか團結とか、云ふ言葉は、よくかういふ團體に使はれた共通語であるが、自分たちは搾取されてゐる者である、無産者であるといふはつきりとした意識の上に立たないで初められる限り官製處女會が、結局婦人の解放の上に何の役にも立たないと同じやうなものに終つてしまふのはやむをえない。但し、俸給生活者組合に組織されてゐる職業婦人近ごろは大分あるやうである。

先頃の女教員の全國大會で、いつものやうな教授訓練に關する議案の外に、時間制勤務に就いて、初任給の問題に就いて、教育行政に婦人も參加しなくてはならぬといふ問題に就いて等、所謂職業婦人問題としての女教員の問題に大分觸れて來たやうであるが、時勢の力とは云ひながら大きな進歩と云はねばなるまい。

その他、參政權の運動は一つの年中行事として議會が初まる頃になると一部婦人の間に活動を見うけるのであるが、初めの程の意氣込みと熱とを缺いてゐる憾みがある。然しながら、これを以て婦人大衆の間に政治運動としての婦人運動に對する興味が衰へたのであらうと見るならばそれは大きな誤りである。

參政權運動も今や、重大な方向轉換の機に到來してゐる、ブルヂョア・デモクラシイ以上に出でない現存の婦人參政權運動が結局婦人の大多數を含めるところの無産階級の婦人の生活をおき忘れて徒らに既成政黨にお百度を踏んでゐる間に、無産黨の出現と共に彼女らの今、夢想だにもしてゐないやうな無産の婦人大衆に依る政治運

動が、全く岸を變へて起されるであらうことは疑ふべくもない。

なほ、多數の女工が參加したストライキが屢々行はれて屢々勝利を遂げたこと、婦人勞働問題に關する研究や調査が智識階級婦人の間に盛んになつたこと、內務省が、工場法の改正、健康保險法、紡績女工の寄宿舍の改善案、母子扶助法案、幼兒保健所、公娼の保護取締りその他各方面に於ける婦人や子供の保護に力を注ぐやうになつて來たことなども書き添へなければならぬ。

非常に忙しい日がつゞいて、一夜で書き上げてしまはねばならぬ瀨戶ぎわに追ひつめられた。もつと充分な用意を持つてゆつくりと書きたいと思つてゐたこの一文が、こんなあわたゞしい內に走り書しなければならなくなつた事を遺憾に思ふ。重大な書き落しがあつたり、不用意な取扱ひが多かつたりしてゐやしないか、と不安に思ひつゝこの稿のペンを措く十二月號の發行がだんだんおくれるばかりだから。（十二月一日）

無産政黨の分裂と婦人の立場

幾多の波瀾を經てやうやく生れた勞働農民黨は、去十月末左翼と右翼との軋轢からつひに分裂して、其後安部磯雄氏や吉野作造氏らの提唱に依つて、勤勞階級を本位にして社會民衆黨が右翼團體の支持をうけて組織されやうとしてゐる。

折柄、突然安部氏等の右翼政黨を支持する總同盟の一部と、勞働農民黨の母體とも云ふべき日本農民組合に屬する一部の人々に依つて、日本勞農黨設立の聲明書が發表された。

かくして、我國の無産政黨は、既に是等の諸政黨の設立に先だつて存在する地方政黨に加ふるに、先頃創立された關西民衆黨、日本農民黨、等の分立に依つて、將に四紛五裂の状態になつたと云はなければならない。

普選の實施を眼前に控へながら、無産階級を代表する政黨が、かくの如く分裂して、未だ政黨としての形態をも備へない中に、互に抗爭を敢てしてゐる事は、無産大衆全體の立場から見て、誠に悲むべき現象である事は云ふまでもない事である。況んや、政治期節を前にして、その地盤の鞏固なその資金の豊富なブルヂ・アー政黨がその毒牙を磨きつゝある事に想ひ至るならば、何人か日暮れて道遠しの感を深くしない者があらう。

かくの如き明白な現實を前にして、何故に、いかにして、その内部的抗爭を敢てしなければならないのであらうか。日本勞農黨はその創立趣意書に於て、次の如くそれに答へてゐる。

「顧みれば昨年夏、我等の無産政黨組織運動が企てられて以來、所謂左右兩翼は、口に大衆的無産政黨組織を叫びながら、少しも大衆の願望を顧みず、徒らに觀念的闘爭に沒頭して、未だ結成を見ざる政黨を或は乘取らんとし、或は破壊せんとして狂奔す」とその冐頭に記して、次に單一政黨を標榜してゐる左翼に對して、「彼等は果して眞正の左翼か、否々、彼等は無産階級運動を毒する小兒病的左翼のみ」、と批難し、現實政策を主張する右翼に對しては「彼等は眞正純眞なる現實派か否々、彼等も亦、小兒病的右翼のみ」と一蹴して、「眞に階級的立場を嚴守して、眞に日本の社會的現實を把握せる堅實純眞なる無産階級運動の正道の確立を

叫んでゐる。

所謂中間派の立場に立つた、この日本勞農黨の左右兩翼に對する批難が正鵠を得たものであるか、亦彼の痛烈皮肉を極めた抗爭を續けてゐる左右、兩派及中間派の、それ〴〵が支持する政黨のいづれが、我國の無產階級を代表する政黨として最も適切なものであるか此三者の排擊が、惡罵が、流語が、益〻烈しくなる今日、さうした圏内から自然置きざりにされてゐる未組織大衆は益々、その判斷に迷ふてゐるやうな狀態である。

こうした場合に於て、未だ政治的に結社加入の資格を持たない女人大衆は如何なる態度をとるべきか。彼女達はそれ等の諸政黨が眼前の抗爭や、結束に急なる餘り、まるで、緣なき衆生の地位に置かれてゐる如き感があるが、無產政黨を標榜する限り、左右を問はず、被支配階級としての婦人の最も有力な味方であらなければならない事は云ふまでもない事であつて、たゞ前記のやうな混亂狀態の爲めに、その具體的步みを婦人大衆の上にまで延ばすやうな餘裕を未だ持ち得ないでゐるのであると云ふ事を、婦人は忘れてはならない。

是は婦人にとつては大きな不幸である事は無論の事であるが、ひるがつて思ふに、それは又一面に於て、前記の諸無產政黨の中いづれが最も婦人の政治的立場に、その自覺運動に、徹底した現實政策を把持してゐるか、冷靜に愼重に批判し、監視し撰擇し得る、大きなキヤチングボートが婦人大衆に與へられてゐると思ふ。

婦人大衆を如何に敎育し、如何にその政治的勢力を生かして行くかと、云ふ事は、無產政黨が、眞に大衆の政黨として、それこそ解放運動の正道を確立する最後の鍵である。而して婦人としては、又、單に抽象的な婦人參政權と云ふが如き、經濟的、社會的自覺の稀薄な立場をすてゝ、自分達と同じ被支配者の立場に立つてゐる前記諸政黨の明確な立場と、その實際政策に、愼重な注意を拂つて、彼女等にゆだねられた最後の鍵を、キヤチングボートを、最も有效に生かして行つてこそ、婦人解放の捷路を辿る事が出來るのである。(おく)

———•———

次の正月號誌上で◇勞農黨◇日本勞農黨◇社會民衆黨、◇日本農民黨、右四つの無產政黨が、婦人大衆に對してどういふ具體案を持つてゐるかに就いて、書いて貰ふことになつてゐます。



消費者の解放

笠原千鶴

收入と支出

私共の收入が何所から、如何にして這入り、此が支出として何所へ、如何にして出て行くか。

現今やかましい社會問題殊に經濟問題は、詮じつめれば結局此所へ落ちて來るとも云へます。親讓りの財産からの收入と會社工場で働いて得る收入とでは大きい違がります。消費組合運動は、差向き此の家計の支出の方面から出發して問題を解決しやうと云ふのです。

現今我々がどの位の收入を得て居るかと云ふに、大正十二年度の第三種(個人)所得税調査(税法改正前)によると次の數字を得ます。

納税無資格者(即年收八百圓以下)我國總戸數の八七%

納税資格者 ｛ 年收八百圓以上　同　一一%
　　　　　　　年收三千圓以上　同　二%

此は第三種即ち勤勞所得で、第二種所得の公債利子、社債利子、銀行定期預金利子等といふ不勞所得は含まれてゐないのです。戸數百戸の內八十餘戸は年收八百圓以下で暮してゐます。或者は工場に、或者は鑛山の地底に、或者は眞夏の白日の下に働いてゐます。然かも、生活の脅威は彼等の運命です。消費組合運動は、此の八十七%の民衆と十一%の中產者の下層部分の上に樹られる仕組であります。

私共の收入の少くとも四分の三以上は衣食住の費用に支拂はれてゐます。此の支拂はれてゐる金の行方を調べて見ると、我々は餘分に支拂ひ過ぎて居ることを發見します。

すべての物品は交通の發達した今日でさへ、生産者から消費者の手に入るまで、少くとも四人（産地問屋、都市大商人、問屋、小賣）の手を經て居ます。そして私共の支拂つた代價の中で五分から一割が生産者へ、一割が卸賣りへ、三割三分から三割五分が小賣商へ手數料として行つて居ます。現在多くの小賣商や卸賣商が立派にやつて行きつゝあるのは、私共から、こうして取り上げた金によつてであります。

　東京では大正十一年に米屋は百七十三戸に一戸、酒屋は百六十三戸に一戸、菓子屋は七十三戸に一戸の割でした。此等が一所に統一組織されたならば、經營に於ても、力に於ても非常に冗費が省かれて、それだけ消費者のふところを傷めないことになります。消費組合は先づ、こうした餘分な中間商人を無くして、内外の生産者と消費者を直接に連絡させやうといふのです。進んで外國の消費組合のやうに、工場を作り、農地を耕し、牧畜をするやうになると、初めて消費組合運動の大目的に近づいて來たので、後に述べるやうに、備ふけためでなく消費者の用に供するために生産分配することになります。

消費者の昏睡

　以上述べたやうに餘計に支拂ひ過ぎてゐても、吾々消費者の無智は此をあたりまへの事と思つて來ました。又、此はどうにかしなければならぬと思ひ立つても、消費者に何の組織も何の團結もなくては、どうすることも出來ません生産者や大小商人、實業家の云ふなり放題になつて來ました。或る學者は、此の狀態を消費者の昏睡と云ひました。

　組織團結は力であると云ひますが、實業家は、更にその儲けを多くするために、トラストとかカルテルといふやうな團結を作つてゐます。勞働者も、その利益、幸福のために勞働組合を作つてゐます。それに消費者側には何の組織も團結もありません。此の百年許り、勞働者問題とか賃銀問題勞働時間問題とか云つて生産方面のみに注意が向けられ過ぎて、消費の方面について、考慮し計畫を立て運動すると云ふことは等閑に附されて來ました。賃銀や給料を增

した所で、私共の支出の方面を只今のまゝにして置いたのでは何もなりません。其の高くなつただけは、大概物價が高くなつて行くもので、結局は消費者が、其の高いだけを支拂ふことになります。かくの如く消費者に組織がなく意見を纏めることが出來なくては、何時までも生產者、商人、實業家に餘分に取られて、其の云ふ通りになつてゐなければなりません。そこで、

買はされる立場より買ふ立場へ

バラバラで團結のない消費者は、實は物を買つてゐる者は一人もなく、皆買はされてゐると云つた方が、ほんとうです。物を作るにしても、自分の入要乃至組合員の用に供するために作るのと、これを賣つて儲けるために作るのとでは大變違います。今の生產者、實業家、大小商人は、自分の儲けのために作り、賣り捌いてゐるので、民衆の幸福から割出して生產してゐるのではありません。どんなに民衆の爲めには必要品であつても、割に合はない商賣は決してやりません。民衆が着る衣物に困つてゐる際、紡績業者は操業短縮をして價を吊り上げやうとします。フランスで百年ほど前に凶作があつて小麥が缺亡し、多數人の貧乏人はパンの代りに馬鈴薯を食つてゐた。しかし穀物商人は更に小麥の値段をつり上げるために、輸入小麥を船中に匿してゐる内に、下積みの方から腐つて來たので海中に棄てたのでした。(フーリエーは、此れを身に經驗して、現在社會の組織組み立てのどこかに、間違つた所があるに違ないといふ疑を起しました)

此の安く仕入れて高く賣るといふ儲け第一主義(營利主義)のやり方はいけないと云ふので、關東消費組合聯盟第五回大會では綱領の初めに「我等は營利主義に基ける資本主義的經濟組織の改造を期す」と云ふてゐます。此の儲け第一主義も、大袈裟なものになると中々非道いことをやります。儲け第一主義で行くには他の商人の品物が成るだけ賣れないで、自分の品物の賣行きがよくならなければならない。そこで商人は、あらゆる方法を盡して消費者を自分の店に引き付けやうと努力してゐます。

大きなデパートや有名な化粧品藥品等の廣告費は、實に莫大なものです。三越、松屋、松坂屋の裝飾、心よい待遇包裝費、二頭馬車の配達等の費用は、結局誰が負擔してゐるのでせう。仁丹、アリタドラックの廣告費、ミツワ、クラブ等の廣告費は結局誰のふところから出るのでせう。流行といふ社會的壓迫力も、一には此の儲第一主義の大商人が作り出すもので、巧妙な宣傳廣告で我々消費者を「誘惑」し引きづつて行きます。

優勝劣敗の鬪爭主義から持ちつ持たれつの協同自治へ

此の儲第一主義は、小は各商人の競爭で顧客の奪合いがあります。大にしては領土擴張主義で、原料の產地や販路を廣く確實に外國に求めやうといふのです。今度の歐洲大戰の一原因は之れでありました。此はつまり自己の繁榮の爲には、どうしても他人を打ち倒さねばならないのです。自分獨りで甘い汁を吸はんがためには、あらゆる方法を講じます。だから弱いもの、組織のない者は、益々ひどい目に會はされる許りです。

消費者がその昏睡から覺める時が來ました。消費組合は此の儲け第一主義に反對して立ちます。

互ひに爭ひ合ひ、倒し合はないではやつて行けないといふ今の仕組みを改造して、皆で互ひに助け合い、共に働き合つて、眞に持ちつ持たれつといふ間柄でやつて行きたいと云ふのであります。

消費組合は一つの新らしき村である

消費組合にだんだんと積立金が增して行き、既に諸外國でやつてゐるやうに大ビルデイングを持ち、工場、農場、牧場を組合で經營し、組合の汽船を以つて貿易するやうに大きくなつて行きます。

此等の財產は皆組合員の共有物であり組合員の共同管理の下にあります。消費組合員が自分達の共有物の工場で働き、事務所で仕事をします。そして現在の營利主義によつてゐないから、如何なる品物を何所で、何程作るかといふこと(之を產業管理權と云ひます)を決定する場合にも、消

費者はその意見をまとめて出すことが出來ます。ここでは、民衆には手の屆かないやうな贅澤品が出來過ぎてゐる一方民衆の必要品が拂底し（從つて高値でゐる）てゐるといふ間違つたことはなくなります。

英國の消費組合は非常に大きなもので「國家内の國家」と云はれてゐますが消費組合は資本主義の眞只中に建てられた一つの「新しい村」です。そして此の「新しい村」は今迄思想家、文人によつて世界の方々で企てられた空想的な新しき村と違つて、最も現實的な經濟組織の改造の上に立てられる科學的な「新しき村」です。

消費組合と婦人

消費組合の理想は高い所にあり、大きい將來を持つてゐます。無限の發展生長前途を持つてゐますが、消費組合は「最も地上的な最もありふれたもので作られた梯子によつて天に登らう」とするものです。實際は日用品の配給といふ、衣食住に關した一寸目立たない所から始ります。

臺所からの改善、家計に於ける消費方面からの解放運動といふことは、當然婦人運動と密接な關係を持つて來ます。條件の許す婦人は消費組合運動の鬪士として、戰線に立たなければならない。我國の消費組合運動の現狀は、婦人の鬪士の出現を待望してゐます。英國婦人ギルドの發達が示すやうに、宣傳教育には婦人の力によらねばなりません。「婦人運動」十一月號で奥むめお氏は「消費組合運動は……當然直接消費を司つてゐる婦人が中心になつてやるべき仕事だと思ひます」といひ『又消費組合の精神は婦人が一番理解し易い立場にある者であるし、婦人に理解されることなしに、この運動を進めて行くことは出來ないと思はれます婦人運動としてこの消費組合運動が一番しつくりとした、そして誰にも參加し得る實際運動であると、私には考へられます』と云つてゐられる。筆者は婦人運動については殆んど知る所ない者であるが、日本の今迄の稍もすれば抽象的な洋裝婦人運動が、今や轉廻して、地に付いた運動に還らうとしてゐるかに見へます。（一五、一一、一三）

關東消費組合聯盟第五回大會

顧れば大正九年の秋東京市外大島町の一隅に於て共働社なる名稱の下に孤々の聲を擧げて以來六ケ年間に組合員は約四十名から三千八百名以上に增加し、支部十七組合をその統制下に持つに至つた、消費組合聯盟は去る十一月七日午後二時から芝區協調會館に於てその第五回大會を開催した。出席者代議員八十名傍聽者四十餘名、西郊共働社の大澤八十松氏司會者となり開會の辭を述べ、續いて大澤氏の指名にて議長に廣田金一氏を、議長指名にて副議長德永直氏を推し、書記に白石氏德丸氏を任命、次で庄內產米組合の諏訪順次郎氏、東洋經濟新報社の丸岡重堯氏、大山啫雄氏、啓明會の池田種雄氏、朝鮮勞働產業所稻光氏等の祝辭、秋田農村消費組合、神戶購買組合、大阪消費組合協會等の祝辭祝電の朗讀、最後に聯盟顧問岡本利吉氏の祝辭あつて、青山義雄氏本社報告をなし、議事に入り左記諸議案全部可決した。

一、貸借對照表承認の件―本部提案

二、消費組合全國聯合結成の件―本部提案

三、宣言及綱領決議案―西郊共働社提案

時に五時二十五分、休憩後五時四十分再會攝津評議會及び帝大教授本位田祥男氏の祝辭祝電朗讀拍手。續いて議事續行

四、消費組合聯盟名稱改正の件―本部提案
　關東　費組合聯盟と改稱に決定

五、消費組合聯盟定款改正の件―西郊共働社提案代表委員會を設置し協議することゝなる

六、金融機關設置の件―大島共働社提案
　保會代表委員會に附託すること

七、日米斤量制度實施の件東京共働社提案
　大正十六年一月よりメートル法に改正

緊急動議
　精米所改革研究委員會設置の件―博文館共働社提案
　委員七名外に精米所員を加へ研究のこと

八、消費組合聯盟本部移轉の件―博文館共働社提案
　代表委員會に於て協議し次期總會迄に實現するやう努めること

九、消費組合運働者養成機關設置の件―本部提案　先づ講習會設置のこと

一〇、加盟組合整理の件―西郊共働社提案
　角筈、板橋、笹塚の三共働社を整理改廢すること

一一、地域的組合員整理促進の件 ⎫
一二、共同宣傳に關する件 ⎭ 博文館共働社提案

一三、機關紙統一の件―西郊共働社提案
　每月發行隔月に聯盟と各組合とにて負擔

一四、恩惠的購買組合及共濟組合の消費組合化―西郊共働社提案

一五、現金制度促進の件―西郊共働社提案

一六、消費組合聯盟マーク制定及消費組合デー實施の件―本部提案
　マークは一定のものを定め商品のみに附すること
　消費組合デーは每年七月第一土曜とすること

一七、消費組合聯盟印刷所設置の件―西郊共働社提案
　消費組合聯盟にて應援すること

議事終了後役員選擧を行ふ。議長役員選擧の方法を諮る。各組合一名の代表選擧法に決定選擧の結果左記當選

理事、廣田、德永、青山、原口、志萱
監事、笠原、横田、岡部

尙岡本利吉氏は從前通り顧問として留任德永直氏の閉會の辭あり、關東消費組合萬歲を三唱午後十時散會した。

綱領

一、我等は營利主義に基ける資本主義的經濟組織の改造を期す
一、我等は諸他の無產階級の運動と相提攜して目的の實現を期す
一、我等は消費組合の全國的結成を期す

（村山　重忠）

野牛の涙

ローザ・ルクセンブルグ

一　内心の歡喜、野牛の涙

今から丁度一年前、あなたはウロンケに私に會ひに來てくれて、美しいクリスマスの木を私に下すつた。今年はこゝで一本買ふ事にしましたが、それはほんとに見すぼらしい、枝の折れたりした、小いさな木を持つて來ましたの。……私が今用意してる八つの蠟燭をどうしてそれに附けたものかと、私は當惑してゐます。………

昨夜私は床の中で永いあいだ目を覺してゐた。私は十時に寢せられるのだが、一時前に眠つた事は一度もない。それで私は闇の中に轉がつて樣々の事を考へる。昨夜私の考はこんなふうにそれて行つた。——私が始終、これといふ原因もないのに、何か嬉しい樣な醉心地になるのは、どうしたわけだらう。……私は今こゝに、闇や、疲れや、不自由や、冬の寒さなどの、樣々な黑い蔽ひ物に包まれて、只つた獨り默つて寢てゐる。それだのに私の胸は、測り知られぬ内心の歡喜を以て鼓動してゐる。それは恰かも、晴々しい日光の下に花の多い牧場の中でも歩いてゐるかの如くである。……けれども、その喜びの原因を私の心に探つて見ると、そこには何の原因もない。それで只だ自分で自分を笑ふより外はない。——そこで私は信ずる、この秘密の鍵は只だ生命その者に在る。この深い夜の闇は、それを本當に見さへすれば、ビロードの樣に柔かで美しいのである……私はこの不思議の鍵をあなたに持たせたい。……私は決して空虛な歡樂をあなたに捧げたり、禁慾主義を說法し

たりするのではない。私はあなたに、總ての現實的の快感を味はせたい。そして只、その上に、私のこの無盡藏な內的の愉悦の感じをあげたいと思ふ。……

ソニチユカ・私は先ごろ一つ烈しい苦痛を經驗した。私の散歩する中庭に、おり〳〵軍用の馬力車が引き込まれるそれには戰線から來た穀物袋や古服やシャツなどが積んであつて、どうかすると血まみれになつてゐる。それらの品は女囚の監房で修繕されて、再び軍隊に送り返されるのである。先日その馬力の一つが、馬でなく、野牛の一組に引かれてやつて來た。私はそれまでに野牛といふものを近くで見た事がなかつた。彼等は普通の牛よりズット頑丈な骨格で、額は平たく、角は横に出つてゐるので、頭の恰好は何處やら羊に似てゐる。彼等は黑色で大きな柔しい眼を持つてゐる。彼等はルーマニヤからの戰利品なのです。馭者の兵士達の話では、この動物を捕獲する事は非常に困難で又この自由に慣れた奴等を役用に仕込む事は一層の困難だつたそうです。……奴等はこのブレスラウだけに百頭ばかりも居るそうだが、無慈悲にコキつかわれ、滅茶苦茶に重い荷物を引かされて、程なく死んでしまふのだそうです。

所が先日、其の馬力が袋を山の樣に積んで、やつて來たが、餘りそれが重過るので、野牛が木戸の閾を通り越す事が出來なかつた。すると馭者の兵士が野蠻な奴で、鞭の柄の太い所で其の哀れな動物をなぐりはじめた。それが餘り烈しいので、木戸番の女看守が怒りだし、この動物を可愛そうとは思はないかと兵士に向つて問ひつめた。所が兵士は、俺達人間に對しても、誰も可愛そうなんて云つては呉れないぢやないかと、意地のわるい微笑をして、更に烈しくなぐりつけた。それで牛は遂に木戸を通りぬけて車を中に引き込んだが、然しその一疋は血を流してゐた。……ソニチユカ、野牛の皮は厚い硬い物の喩へにも引かれてゐるがその皮が裂けてゐた。

それから荷物の卸される間、畜生等は全く疲れ切つて、只ジツト立つてゐたが、血を流した一疋は、その黑い顔と柔しい黑い眼とに、今ま泣いた子供の樣な表情を浮べて前

の方を見つめてゐた。それは丁度、子供が烈しく折檻されて、その理由も分らず、その暴力と苦痛とを逃れる方法も知らぬといふ表情であつた。私はその牛の前に立つた。すると牛は眞正面に私を見た。私の眼から涙がぼろ〳〵こぼれた。それは牛の涙であつた。……自由な豐饒なルーマニヤの綠の牧場が、如何に遠く、如何に回復しがたく、失はれてゐた事よ。そこには如何に異つた太陽の光があり、如何に異なつた風のそよぎがあつた事だらう。又如何に美しい鳥の囀りや、如何に心地のよい牧夫の呼聲があつた事だらう。然るにこゝでは、恐ろしい町、濕つた底、腐つた葉嘔吐を催させる樣な、じめ〳〵した枯草、見も知らぬ恐ろしい人間、——而も毆打又毆打、そして傷口から迸り出る血潮。おゝ我が哀れな野牛よ、我が哀れな愛すべき兄弟よ我々はこゝに二人、共に力なく立つてゐる。そして同じ苦痛と、たよりなさと、あこがれとを味つてゐる。……

最愛のソニユーシヤ。如何なる事があらうとも、靜かに愉快にしてゐて下さい。これが人生です。我々はこの人生を有がまゝに受取らねばならぬ。勇敢に、大膽に、そしていつも微笑しつゝ。（ブレスラウ、一九一七年十二月中旬）

二、ばら色の大きな雲

ソニチユカ、あなたはもう聞いてゐるでせう、私はブレスラウに移されるのです。私は今朝、私の小いさな園に別れを別げた。……

昨日の晩、多分九時ごろ、私は素晴らしい景色を見た。私がソファの上に横になつてゐると、何か赤い光がパツと窓硝子に映つた。……私は窓に走つて行つた。そして其の景色に魂を奪はれてしまつた。一面に單調な灰色の空を背景として、東の方に、恐ろしく美しい、バラ色の大きな雲が、東の方に聳え立つてゐた。……それは恰かも遠方からのほほゑみであり、會釋であるかの樣に思はれた。私は自由を回復した樣な心持になつて、思はず兩手をその惚々するまぼろしの方に差しだした。凡そ世の中にこうした色が

あり、こうした形がある以上、生命は美しく、又生き甲斐があるのですわね。…そして彼等は、私が何處に行かうと、私の生きゐる間は、必ず私と一緒に來るだらう。……

（ウロンケ、一九一七年七月廿日）

三、ミレーの畫、入日の眺

愛するソニチカ。……私はもうこゝで充分心持よく落ちついてゐます。……勿論こゝでは、私がウロンケで持つてゐた樣な比較的自由が缺けてゐる。……こゝでは私は只だ閉ぢこめられてゐる。新鮮な空氣もなく、花園もなく、殊には鳥もゐない。けれども人は直ぐに何も無い事に慣れてしまふものです。……

私の運動する大きな敷石の庭には、何物をも發見する機會がありません。私はその庭を行つたり戻つたりする時、その灰色の敷石ばかりを見つめて、そこに働いてゐる囚人達を見ることを避けるのです。私はあの淺ましい囚人服の彼等を見るのがつらい。彼等の中にはいつも幾人か、人間の墮落の極印の下に、性も年齡も個性も全く拭ひ盡された者がある。……尤も中には、獄衣が少しも惡く見えず、恐らく畫家の目を喜ばすであらうと思はれる人達もある。例へば、私は曾て一人の若い勞働婦人を見たが、その人は細つそりと引きしまつた恰好で、頭にまとうた布片の下から見えるキチンとした横顏は、ミレーの畫にある百姓女を私に思ひ出させた。……

私の窓は男監を見くだしてゐる。それは例の通り陰鬱な赤煉瓦の建物です。けれども塀の向ふには、何處かの公園に屬する綠の梢が見えてゐる。その中の一本は丈の高い黒ポプラで、風の强い日には其の葉ずれの音が聞える。……窓は北西に向いてゐるので折々素晴らしい入日が見える。そのバラ色の雲の眺めが、私に取つて有らゆる物の埋めあわせになるのだと思つて下さい。……

カルルが鳥の鳴聲に關する本を望んで來たと云ふのには私は少し驚きました。どうぞ動物の分布に關する好い本を彼に送つて下さい。……（ブレスラウ、一九一七年八月二日）

四、コルシカの風景

……今日は私、しばらくの間ほんとに辛い思ひをした。三時十九分の汽笛がマチルダ(イ)の出發を私に知らせた。私は全く檻の中の毛物の様に、平生ならばそこを「散歩」する塀のそばを、滅茶苦茶に行つたり來たりした。私の心臓は痛みを以て鼓動した。私は獨語した。「どうかして私もこゝから出られないものかなア。ほんとにどうかして私も出られないものかなア。」然し心配して下さるな、私のこの心臓は好く仕付けられた犬の様になつてゐる。私はそれを一つ叩いた。そして靜まれと命じた。

私の事はこれだけで澤山。

ソチユカ、あなたは覺えてるでせう、戰爭が始つたら直ぐに斯うしようと我々が約束した事を。我々は南に行く筈でしたね。あの計畫を實行しませうよ。あなたは多分、私と一緒にイタリーに行く積りだつたらう。それがあなたの希望の絶頂だらう。

然し私の計畫では、あなたをコルシカに連れて行きたい コルシカはイタリーよりモツと奇麗だ。コルシカに行くとヨーロツパを忘れる、少なくとも近代のヨーロツパを忘れる。マア想像して御覧、山々や谷々が切りさげた様になつて、上の方には恰好のいゝ灰色の裸岩の塊りばかりがあり下の方には鬱蒼たる橄欖の森や、月桂樹の花や、栗の古木の林のある、あの英雄的な大風景、そして其の總ての上に太古の靜けさがある。人の聲もなければ鳥の歌もない。聞えるものは只、石の床を流れ降る小川のせせらぎか、或は高い處の岩のわれ目を吹き過ぎる風―昔のオヂツシユースの帆(ロ)に孕んだ其の同じ風―のささやきだけです。そしてそこで出會ふ人間が又そつくりこの景色にはまつてゐる 例へば山道の或る曲り角で不意に農夫の行列が現はれる。コルシカ人はドイツの農夫の様に群になつては歩かないのです。

先登には大抵犬が行く。次には多分山羊か、又は栗の一パイはいつてゐる袋をつけた兒馬かがのろ〳〵とやつて來

る。次には大きな騾馬、それには女が横乘をして、兩足をだらりとさげ、腕に子供を抱いてゐる。……彼女の脇には髭のある男が大股に歩く。その態度は如何にも落ちつきはらつてゐる。そして二人とも默つてゐる。どうしても「神聖家族」(ハ)としか見えない。こんな景氣に出會ふのは毎度の事です。……

是非行きませう。そして私が先にした樣に、毎晩違つた處に眠り、毎朝日の出を迎へて起き、そして島中をさまよひ歩きませう。あなたの心はこれでも動かない?。私はぜひあなたを此の新世界に紹介したい。元氣よくして下さい

――あなたのロザ。(ウロンケ一九一七年一月十五日)

▲(イ)ロザの秘書役をしてゐた娘。(ロ)ギリシヤの古詩にある話。(ハ)ヨセフとマリヤと赤ん坊の基督)

――パンフレツトロザの手紙より――

――三十五頁よりつゞく

この土地には、小百合幼稚園の母の會がこの程から講師を招いて話を聞いたり、バザーを開いたりして活動を初めてゐらつしやるだけで、あとには、殆んど婦人界らしいものがないので、參會せられた皆樣が、ぜひ會を拵へたい、自分も會員にならう、と熱心にいろ〳〵の相談を進められました。(良人と相談をした上で後ほどたしかな御返事をする、と申出られた人も二三はありましたが)

一つの會を作つて働いてゆくまでには未だいくらかの準備時代が必要でせうし、又、多少の面倒な事情もあるやうに思はれますが、非常に熱心な若い人たちも尠くないことですからきつとその内に元氣のいゝ呱々の聲をあげて生れ出ることゝ思ひます。

なほ、この日の會場で、初めから終りまで吉原初子さんが何かとあつせんして下さつたのは、どんなに會場の空氣を引締めてよくするのに役立つたか知れません。日頃元氣な鈴木千代子さんが、鳩の豆鐵砲みたいに大人しく控へてゐられたのは一寸異樣に見えました。然し、鈴木さんを知る程の人は、氏の活動性に信頼出來るでせう。…以下略

婦人職業の詩

生田花世

その一

逢ふてくれるであらうか
逢ふてはくれないであらうか
うまく話がまとまるであらうか
厭な思ひにさせられようか
逢ふてくれまいぞんぶん厭な思ひだらう
それはもとより承知のこと
かういふ思ひで入つた玄關を
承認の言葉とやさしい顔とで
お見送りされるうれしさ
かうしたことも
あるものを

――婦人訪問記者

その二

艶ふき髪をくろかみを
ときほぐしときほぐし
ふけをとり油を塗りて
くしけづりくしけづり
ウエイブの毛立そろへて
結ひ上ぐるこの熟練の指のさき
命をこめてたまくしげ
櫛の歯波の世渡りを
托する指の
貴くぞ
今眺むる。

――女かみゆひ

日向葵の死

目次緋紗子

かつて狂戀のほのほに燃えた
日向葵が
季節の刄に斃れて
花園は一面血しほのうみ

かつては幾度か
熱烈な太陽の接吻をうけた黄金の唇も
今朝は全くこときれてその色を失ひ
冷たく地上によこたわつてゐた。

無氣味な風はうすら寒く
日向葵の死骸と
わたしの跣足をおびえさせた

死ぬと云ふこと
再びかへつては來ぬといふこと
この現實から姿を消すといふこと
あゝ、何とかぎりなく寂しい事であらうぞ、

地上に銀針の樣な霜柱の立つ頃は
全く姿を失つてしまふであらうに
そしてその暗くみじめな最後の死面は
私が死ぬまで心にのこされるであらう

けれど今は日向葵ではない
わたしを世界中で一番熱愛して下さる戀人よ
わたしたちの最後のお約束は
お忘れなさらないでせうね。

新社會と家族制度（續）

コロンタイ
山川菊榮譯

育兒と教育の社會化

然し個人主義的な家政の中から是等一切の勞働がなくなつてしまつた後に家庭には何が殘るであらうか。そこにはまだ子供の問題が殘つてゐる。けれども此場合にも亦、勞働者の國家は、家庭を助けに來、家庭に取つて代るのである。社會は、以前には兩親の負擔であつた一切のことを徐々に引受ける。資本主義の下に於ては、子供の教育は親の義務であつた。子供等は學校で教へられる。子供が學齡に達すると親はホツとする。けれどもそれだけで子供に對する家庭の義務が濟んだ譯ではない。その外にまだ子供を養ひ、靴を買ひ、着物を着せ、彼等を熟練した正直な勞働者に仕立てて、他日獨立して生活し、兩親が年を取ればそれを養ふことが出來るようにしなければならぬ。けれども勞働者の家族がその子供に對する是等全ての義務を完全に果し得ることは稀である。賃銀が廉いために子供らに腹一杯食べさすことすら出來ない上に、暇がないので、親は子供を教育する義務を果たすことが出來ない。家庭は子供を育てる所だと想はれてゐた。けれどもそれは果して實際に行はれたであらうか。事實上、プロレタリアの子を育てるものは街頭である。吾々の時代にはなほ、父母と共に樂しむことの出來た家庭生活の樂しみを、今日のプロレタリアの子は知らないのである。

のみならず兩親の賃銀が廉く、生活が不安定で、時には食ふにも事を缺くために、プロレタリアの息子は十歲になるかならぬうちから獨立の勞働者となることが少くない。さて子供（男でも女でも）は、獨りで金を取るようになると父母の言葉や忠告は何等の力も持たぬほどに、自分を獨立獨行の人間だと考へるようになり、そこで父母の權威は弱くなり、從順といふことは姿を消してしまふ。家庭の勞働が一つ一つなくなるにつれ、扶養と訓練とに關する一切の義務は、父母の代りに社會が引受けることゝなる。資本主義の下に於ては、子供はプロレタリアの家庭にとつては、屢々實に餘りにも屢々・

堪へ難い重荷となる。

この場合にも亦た×××の社會は父母を助けに來る。ソヴィエット・ロシアに於ては、教育及び社會事業人民委員の保護の下に、非常な進歩が見られ、既に家庭の子供を養ひ育てる任務を容易にするために、多くの方法が講ぜられた。極く小さな赤兒のための哺育所もあれば、托兒所もあり、幼稚園、兒童コロニー、兒童ホームもあり、虚弱兒のための病院、靜養所、兒童食堂、學校の無料給食、教育機關に收容されてゐる子供らに對する、教科書、温かい衣服靴等の無料配附等がある。是等全ては、子供が家庭を離れて父母の保護から社會の保護に移されて行くことを語るものではあるまいか。

母親と子供の保護

子供に對する父母の世話は三つの相異部分から成つてゐる。それは(一)極く幼い赤兒を育てるに必要な世話(二)子供の養育。(三)子供の訓練である。小學校、中學校及び大學で子供を教育することは、資本主義の社會に於てさへも、國家の義務となつて居る。勞働階級の他の仕事や、生活狀態は、資本主義の社會に於てさへも、子供のために運動場、幼稚園、育兒院等々の創立を絶對に餘議なくさせたのである。勞働者がその權利を自覺すればするほど、彼等が或國家の内部でよりよく組織されてゐればゐるほど、社會は家庭から子供の世話を減じようと骨折るものである。けれどもブルジョア社會は、これが結局家族制度の解體を促すことを恐るゝ餘り、此點で勞働階級の利益に添ふことを憚かつてゐる。資本家自身舊い家族制度、即ち妻は奴隷で、一家を扶養する責任が一に夫にかゝつてゐる舊式な家族制度こそは、無産階級の解放に對するの努力を抑壓し男女勞働者の×××精神を弱める最良の武器であることを知らぬものではない。家族に對する心配は勞働者の氣概を奪ひ、資本家と妥協することを餘儀なくさせる。子供が飢えてゐる時、父たり母たる者は、何事をか敢て辭しよう?。

子供の教育を眞に社會的な機能――國家事業に移すことの出來なかつた資本主義の社會に引かへ、××××の社會は子供の社會的教育を以てその法律習慣の基礎と看做し、新しい建造物の礎石と考へるであらう。未來の社會の人間を作り上げるものは、夫婦喧嘩の絶えない、自分の子供だけにしか愛情を注がぬ、コセ／＼とした狹い、過去の家庭ではない。吾らの新しい社會に於ける、新しい人間は、運動場、花園、家庭、及びこれに類した他の色々の機

闘のような、社會主義的組織の中で作られる。子供らは一日大部分をさういふ處で過し、其處で賢い教育者は彼を一致團結、友情、相互扶助、集團生活への奉仕といふような神聖な標語の偉大さを意識したコムミユニストに作り上げるであらう。

けれどもさうなつて見ると、子供の養育も訓練も無くなつた後、特に子供のための物質的な煩らひの大部分がなくなつた後子供がなほその母親の注意を要する極く幼弱な時代のほか――母親のスカートに縋つてヨチ〳〵歩きを始める時分よりほか――子供に對する家庭の義務が何ほど殘つてゐるであらうか。

が、子供がそれほどに小さい時分にも、××××の國家は勞働階級の母親に救ひの手を藉しに來る。もはや母親は赤児を腕に抱いたまゝ屈辱に曝されるには及ばない。勞働者の國家は、母親が合法的結婚をしてゐようとゐまいと、その子に乳を呑ませてゐる限り全ての母親に生活の保障を與へる義務を負ひ、到る處に產院を作り、全ての都市と全ての農村とに、婦人をして有用な方法で國家に盡させると同時に母たることを得しめるために、托兒所及びこれに類似の機關を設ける義務を負うて居る。

勞働階級の母親は安心してゐてよろしい。××××社會は父母から子供を奪はうとしてゐる譯でもなく、赤児を母親の懐から引放さうとしてゐる譯でもない。又それは現在の家庭を破壞するために暴力を用ゐようとするものでもない。決してそんなことはしない。××××の社會はそんなことを目的とするものではない。たゞ吾々はかういふことを観察するだけである。即ち時代後れになつた家族制度は亡びつゝある。それは、曾ては家族を社會的單位として支へてゐた多くの柱であつた全ての家庭勞働から徐々に解放されかけて居る。家政は如何といへば、これも有用であつた時代を過ぎてゐる。子供等は如何といふに、無產階級の父母は既に彼等の世話をすることが出來なくなつてゐる。彼等は子供を養ふことも教育することも出來ない。親も子も一樣にかような境遇のために苦しんで居る。故に××××の社會は男女勞働者に近づいて斯ういふ、『あなた方は若い。あなた方は互に愛し合つてゐる。誰でも幸福を樂しむ權利はある。だからあなた方は人生を樂しみなさい。幸福を遁れるな。結婚を恐れるな。たとへ資本主義の社會では、結婚は男女勞働者にとつて眞に鐵鎖を意味したとしても。特に、諸君は若くて健康なので

あるから、諸君の國に新しい勞働者、新しい子供市民を與へることを恐れるな。勞働者の社會は新しい勞働者を要する。それは全ての新しい子供が此世に生れて來るのを歡迎する。諸君は諸君の子供の將來を心配するにも及ばない。諸君の子供は飢えも寒さも知るに及ばない。諸君の子供は資本主義の社會で見られるように、不幸でもなく、投げやりにして運命の飜弄に任されることもない。子供が此世に生れると同時に、食糧の割宛と周到な注意とが、××××の社會、勞働者の國家によつて、子供と母親とに保障される。子供は××××の祖國によつて養はれ、育てられ、且つ敎育される。けれども此祖國は、子供の敎育に參與したいと望む父母の懐から子供を奪はうとするものではない。×××× の社會は子供の敎育に必要な一切の義務を引受けはするであらうが、父としての悦び、母としての滿足を、さういふ悦びを理解し味はふことの出來る人々から奪はうとするものではない。これが暴力によつて家庭を亡ぼすものといはれるであらうか。又母親から子供を無理に引放すものといはれるだらうか。

新社會の男女關係

舊い家庭制度がもはや時代おくれとなつたといふ事實は、如何ともすることが出來ない。それは××××社會の罪ではなくて、新らしい生活狀態の結果である。家庭は、曾ては國家にとつて必要なものであつたが、今ではもはや必要ではなくなつて來てゐる。のみならず、それは單に不必要たるに止まらずに、婦人勞働者がより生產的なより重要な仕事に參加することを妨げる點で有害なものである。またそれは、曾ては家庭の任務であつた子供の養育が漸次に社會の手に移されて居る以上家庭の人員にとつても必要でなくなつて來てゐる。けれども舊い家族制度の廢墟の上に、吾々は程なく、全然新しい男女關係の形式が興るのを見るであらう。それは愛情と友情との結合であり、××××社會の平等な人間同士の結合であり、二人は共に自由であり、共に獨立して居り、共に勞働者であるであらう。そこにはもはや婦人の家庭『奴役』は存在しない！ もはや家庭の內部の不平等は存在しない！ 夫に見捨てられた時、子供らを抱いて途方に暮れる心配はもはや婦人にはない。×××× 社會の婦人は夫に賴らず、自分の勞働に賴るのみである。彼女を扶養するものは夫ではなくて、彼女自身の強い腕である。子供らの運命はもはや心配する必要がない。子供らに對して

は勞働者の國家が責任をもつ。結婚は現代の家庭生活を汚してゐる一切の物質要素一切の金錢的打算を一掃せられて淨化せられるであらう。今より後、結婚は、互に相愛し、相信じ合つてゐる二つの魂の崇高なる結婚と變るであらう。此結合は、全ての男子勞働者と婦人勞働者とに同時に、自分自身と、自分を取捲く周圍とを自覺してゐる者の運命である最大限度の幸福と完全な滿足とを約束する。過去の結婚奴隷制度の代りに明日の×××社會が男女に等しく提供するものは僚友の情によつて鼓舞せられ、それによつて强められてゐる處の、この自由結合である。

　一旦勞働狀態が變革せられ、勞働婦人の物質的安定が增加せられ、且つ敎會によつて結ばれる結婚――根底に於て虛僞にすぎない、この謂ゆる永久不滅の結婚――が、互に愛人であり僚友である處の男女の自由な、正直な結合に變つたならば、今一つの恥づべき天罰が消え失せるであらう。人類の汚辱であり、飢えたる勞働婦人にその一切の重い責苦を負はせるところの、今一つの恐るべき害惡――賣淫――が消え失せるであらう。

　賣淫は現在の經濟組織――私有財產制度の賜物である。一旦××が亡びたならば、婦人の賣買は自から消滅するであらう。

　故に勞働階級の婦人は、現在のような家庭生活が亡びるの外はないことを少しも案ずるには及ばない。それよりも彼等は、婦人を家庭奴隷の狀態から解放し、母性の負擔を輕くし、且つ最後に婦人を苦しめる最も恐るべき呪ひ――賣淫――を消滅させてしまふところの、新しい社會の夜明けを歡呼して迎ふべきである。

　勞働者解放の偉大なる主義のための戰ひに召集せられた婦人――斯かる婦人は、新國家に於てはもはや、『これは私自身の子供である。この子供らに私は母としての愛情を傾け盡してゐる。それはあなた方の子供、私の隣人の子供である。だから私はその子供達のことはどうでもかまはぬ、私は自分の子供らの世話だけで澤山だ』といふような狹い差別觀念は存在し得ないことを知らねばならぬ。今後、自己の社會的職分を自覺してゐる、勞働階級の母親は、自分の子供と他人の子供とを區別せぬ程度にまで到達せねばならぬ。彼女は、今後はたゞ吾々の子供、××××國家の子供、全ての勞働者の共同の所有である子供しかないことを知らねばならぬ。

　勞働者の國家は男女關係の新しい形

式を必要とする。自分自身の子供に對する母親の狹い排他的な愛情は、無産階級の大家族の子供全體を包容するまでに擴大せねばならぬ。婦人の隷屬の上に基礎をおく、解除し難い結婚の代りに、平等の權利と義務とを持つ、勞働者の國家の二人の成員の愛情と尊敬によつて固められた自由結合が與るのを吾々は見るであらう。個人的、利己的な家庭の代りに、男子も女子も全ての勞働者が、何よりも第一に兄弟であり、僚友である所の、普偏的勞働者の大家庭が與るであらう。明日の×××社會における男女間の關係はかようなものである。この新しい關係は、人類に、資本主義制度の商業的社會には知られなかつた喜び、即ち配偶者が眞に社會的に平等であることによつて高尙なものにされる謂ゆる自由戀愛のあらゆる喜びを與へるであらう。

健康な、發育盛りの子供達のために道を開け。人生と——感情も愛情も自由な——その歡びに執着する力强い靑年のために道を開け。これが××××社會の標語である。自由、平等、及び愛の名に於て、吾々は勞働婦人及び勞働者、農婦及び農夫に對し、勇敢に、且つ確信を以て人類社會をより完全により公正に、且つ個人にその價する幸福をより、十分に與へるように、それを改造する事業にたづさはることを求める。ロシアに次いで全世界の他のそれを庇護するであらう□□は、既に吾々に、人類が幾世記の間あこがれて來た地上の天國の近づいて來たことを告げてゐる。

▽今に見ろ

去年くれ
ぐで〱に醉ばらつて
「今に見ろ」と
カグラ坂の人込の中で
雪の降る大空へ
拳を振つてゐたたちん棒があつたが
どうなつた事やら。

▽乞食と女

道の乞食をびつくりさせて
若い女が自働車で通る
はてどこへ行く年の暮
こじきはひとりしあん顔

▽たばこのけむり

これが命か
たばこの煙
今日も二十本
明日も二十本
空に登つて雲となる
空に登つて雲となる

——ねく・えいち——

豊橋からのたより△△△△△

現代に生きる私たちが、現代の社會の空氣にふれた一つの會をほしいとねがふのは當然ではありますまいか。さういふ會を私たちが持つて、さういふ會を通じて少しづゝ、少しでも今の社會にふさわしい、そして今の社會が一番で私たちに要求してゐるやうな仕事を一つ又一つとやつてゆきたいとは、私たちの衷心の希ひでありますまいか考へてみると、あとから〳〵と、いろんな婦人會が出來ては立ち消えてゆきました、最初、さういふ婦人會のために非常な熱と意氣込みとを以て働いてゐられた人たちは、今何處に、どうしてゐられるのでせう。

今、大勢におされて豊橋の私たちが新しい婦人會を要求する。實に私たちの大きな誇りであると共に、大きな責任感なしには考へられないことであります。私たちの團結に力あれ！このおたよりを書くに就いても、斯う希はずにはゐられぬのであります。

扨、時代は移ると聞きますが、今豊橋の婦人界も、胸一ぱいに時代の空氣を吸うて新しく力強い歩みを歩み出さうとしてゐます。十一月廿二日の夜、中八丁の小百合幼稚園で奥むめお氏を中心として輝きのある會合が行はれました。どんな氣勢が上るかしら、素晴しい卓見も出るであろうか……と、好奇的な心と、大きな期待を持つて私もその會合にゆきました。中を覗くやうにして見た園内は森閑としてゐて何となく暗かつたけれど、ずらりとそこに並ん

秋たけて

山崎　北街

さすらひの友の便りを
能登よりか
きく日は流離の心はなれず
＋　＋
かたはらに
なくかなしみのあるごとく
物思ふ夜の銀時計かな
＋　＋
うれいげな人妻
千枚子の物語りきいてやりけり
秋の雨ふる
＋　＋
金儲けぬ
不甲斐なさを罵れる
叔父の言葉に馴れて泣ぬかな
＋　＋
軍人をみな偉いといへる
少年に
などかこの心曇りてはれず
＋　＋
就職のため
あはれ悶ゆる友のあり
大學も今ははやらぬものかな
＋　＋
紅灯行
この小女のためにかなしむと

だ婦人方の黑い瞳の一齊射撃に合ふとだぐ〳〵してしまいました。

最初のことだから、と小規模に『婦人運動』の讀者を中心にしてせられた會合でしたが、五十人分注文したお饅頭が足りないと云つてあとで騷いでゐられた樣でしたから六十人は集つたでせうか（讀者はこの前橋に六十幾人ありますがこの集りには二十幾人しか出てゐられなかつたと、鈴木さんが云つてゐられました）お母さんとその娘さんとが揃つて出てゐられたのが二人ありました、奥さんの喜びやうとてはない位でした。奥さんは、こちらへ來る前に行つてゐられた長野縣下伊那郡の處女會の元氣な樣子をいろ〳〵に話して、もうこれからの婦人會は、これまでのやうな社交會であつたり、着物や髮かたちの展覽會であつてはならないこと、社會的にも個人的にも、婦人といふ一つの共通した、廣い立場から、お互ひに力になり合ふやうな、育てられるやうな、働き合へるやうな會がほしいでありませんか、と、くり返し〳〵云はれました。そして、今日ではいろいろな婦人會がいろ〳〵な立場から活動をしてゐるけれど、どれもこれも婦人として非常に必要なものであるけれどそれが大衆的にならないで、ほんの少數の而も都會の婦人だけの運動に限られてゐるといふのは、抽象的な目的に偏き易いことと、都會人の生活と地方人の生活とは地域的にも慣習的にも非常にちがつてゐるのにそれを一律にゆかうとするからで、各地方別に、その地方の婦人の生活に最もふさはしい婦人會を作つて、ぼつ〳〵と掛つてゆかなければほんとうの力は出て來ない、といふ風なことも話されました。

――二十五頁附つゞく

父母にそむけといひやりしかな

＋　＋

反抗せよと小女に敎へし
逆心を
かなしく思へどすべなかりけり

＋　＋

一歩高く一歩低く醉ひし友に
ヒョット會ふ
妻の不平をきかされしかな

＋　＋

この頃は
カスミを數へる人ばかりと
敎會の鐘なれど心走らず

＋　＋

襤褸買ひの女泣くかと
いつになく
氣にとむる秋の日のくれ

＋　＋

カツトどなつて見しが
靜けさを破るすべなし
秋のふけゆく

＋　＋

成人せば京へ伴はむと
いひける言を
今もうたがはぬ母のうらめし

＋　＋

なれて久し
されど二ツ三ツ
飛行機とべば空あをぐかな

大正十五年の婦人界はまことに多事であつた。内務省や文部省のお役所でさへ、女の問題に大分本氣に肩入れをして來たやうでないか。

×

『女性新聞』の發刊、吉永ふみ子、塚本なか子兩氏が照る日も曇る日も二人づれで働いてゐられる。今の處月二回の發行。

×

無産階級婦人の雜誌として『未來』が誕生した。田島秀子氏一人で初めたものだけれどおひ／＼と發展しつゝあるやうだ。勞働總同盟でも『正義の光』を出して婦人部のために努力してゐる。

×

今年の内に出來たりつぶれたりした婦人の雜誌や週間新聞をあげれば限りがないやうだ。敬意を表して、名前だけはおあづかりにしておかうか。

×

職業婦人聯盟、但、大阪市での出來事。新聞が提燈を持ちすぎたのか、あの人たちに本氣が足りなかつたのか。――私たちの職業婦人聯盟は勞働運動ぢやないんだ、といふ事をしよつちう辯解がましく云つてゐたのが、聞く度びに氣になつてゐたが。勞働運動でない、いかなる職業婦人運動が有り得るか。

あとに殘つて持ちこたえてゐる人に期待をかける。

×

女教員大會で、若くして元氣ある人を少く共十人見つけた。いはゆる女先生かたぎの泥沼に未だ足をつつこんでゐないらしい處が嬉しい。もう少し社會問題に心を、目を向けること。

×

智識階級の婦人の間に女工の問題や坑婦の問題が熱心に取扱はれるやうになつた。國際勞働協會の婦人委員會の活動はその中でも注目に價するものである。が、ある日本一の紡績工場で、その日に限つて晝は牛肉と野菜の煮つけ、夜はアカウ鯛の煮たのを御馳走して女工たちを喜ばせたり面喰はせたりした喜悲劇もないではない。

×

女工の加つたストライキが多かつた。そしてその多くが勝つた。勿論その要求がきはめて當然なものであるのが多かつた。例へば――富士紡績川崎工場のストライキの時、

一、（イ）近親者に面會の自由（ロ）近親者の病氣危篤なる際は歸郷許されたし。（ハ）休日その他相當理由ある時は外出を自由にすること（ニ）貯金拂戻は本人立會の下にすること。

二、被解雇者全部の復職。

三、食事を改善し、營養と清潔に留意して、二日に一回肉又は魚類を使用してほしい。

四、組合加入の自由。

×



身邊雜記

奥むめお

今日も、事務を手傳つて貰つてゐるＨさんから、早く仕事を送つてほしいと速達が來た。印刷やからも、あとの原稿の催促がきびしい。

何といふあわたゞしさだらう。戰場のやうな中で私たち親子は、原稿を書き、食べ、眠り、客を迎へる。事務的にやりたい、計畫的に仕事を秩序立てたい、と毎日これを希はない日とてはないのでけれど、子供は容赦なしに私たちの願望を踏みにぢつて折角やりかけた仕事をまで滅茶々々にしてしまふ　それに貧乏といふ厄介者がゐる。出るにも入るにも私たちの生活では、貧乏が眞つ正面に立ちふさがつてゐて事毎に私たちの輝しい計畫を叩きつぶしてしまふ。こんなことで、時折私は殆んど絶望的な憂うつに捕へられてしまふことがある。

一體おまへのやうに乳呑子を抱へてそんな仕事をやらうとすることが、抑々の間ちがいなんだ、出來ないことの方が當りまへの話だ、と云つて、夫は時どき私をたしなめるのであるけれど、とにかく、私のこの仕事の上の無理が、私の家族の生活の上にも、私自身の上にも可なり目に見えて響いてゐることは疑ひ得ない。

私の子供は七つと三つになる。私は心の内で、どんなに引張りのばすやうな氣持で子供が大きくなるのを待ちかねてゐるか知れない。大正八年初めらいてう氏等の新婦人

協會の仕事に加つた頃から、私の上には子供といふ重荷が負はされてゐた。私は始終子供をおん負して働いた。ペンを走らせてゐるとき眠つてゐるとき、人と話してゐるとき、私の横に子供がゐなかつた日とてはない。

人は、子供づれてまで、どうしてそんな困難な仕事をお前はしなければならないか、と問ふであらうか。私は敢へて云ひたい、斯うも困難な事情の下にある私をしてまでかうして働かないではゐられないやうな思ひをさせないではおかぬ、今の社會の存續する限り、いよ／＼熱心にかうして社會的に働くことをやめないであらうと。

×

私はせめて半日でも子供をあづかつて貰ひ度いと思ふて、婦人ホームの幼稚園に交渉に出かけたことがあつた。（そこには、私たちの子供と非常に仲のよいお友だちが行つてゐるものだから）ところが途中でK女史――かねて私の尊敬してゐる――に出會つた。事情を話しすると、

「あなたの母性愛を尊重しなさい。どんな仕事だつて、子供を育てることほど大きな價値のある仕事はないのです、一緒に連れて働いたらいゝぢやありませんか」

とやられた。幾人か子供を抱えて長い間社會的活動をしてゐられる女史の言とも思はれぬうつろな響しかもたぬ言葉かな、と、その時私に思はれた。

私は日頃、子供が大きくなつて早く學校にゆき幼稚園にも行かれるやうになつてくれと心の中で引き伸ばすやうな思ひでその日を待ちかねてゐる母である。今、私がやつてゐる仕事の價値はよし、取るにたらぬとしても、一體今の私たち階級の母では、母性愛がどうのかうのと如何に教へ訓されたところで――そんなことは云ふ方が野暮だ――母性愛に飽滿してゐることを許されない事情にあるのである。

私は、その子を其處の幼稚園に預けて、職業勞働に働いてゐる私の友人の上を思ひ、その子供の上を思はずにはゐられなかつた。私の子供と仲よしの友だちであるその子供は、外の園兒が歸宅したあとも猶居殘つて、電燈がつく頃、もうお母さんが歸つたかしら、と思ひ乍らしよんぼりと獨

り家に歸つて來るのである。

×

今年一年のわが職業婦人社の成績を顧みてみる。

一體、雜誌の經營といふことは非常に困難なことである。（一方に婦人雜誌一つで巨萬の富を積んで多額納税者になつた石川主婦の友社長のやうなものがあるが、それとこれとは全で性質のちがつたものだ）持出しすべき何の財産もなく、その日〳〵のパンの代にさへ追はれ勝ちにゐる私が、とにかくこゝまで漕いで來ることが出來たといふのは、一重に、この仕事の上に變らぬ好意と期待とをかけてゐて下さる多くの先輩の助力に依るものである。讀者にしたところで、美しい雜誌、面白い雜誌、彪大な、而も實用的な通俗記事の多いいはゆる婦人雜誌が澤山に賣られてゐる中で、特にこの、僅かに四十八頁の雜誌を選び讀んでゐられる讀者の大部分は、勤勞階級の、切りつめた財布の中から、或ひは一冊分づつ、或ひは半年分一年分の誌代を拂込んでは、たえずこの仕事の上に力と勵ましとを送つて與れられるのである。

時に、身動きがとれない程窮乏の底におひつめられる時など、一つそ廢刊して、當分家計をたて、書齋に閉ぢこもつて勉强をしやうかといふ誘惑に捉へられることも決して珍らしいことではないのであるが、いつも、思ひ出すのは、熱心に長い間本誌を支えて來てくれられた愛讀者の諸姉のおもかげや筆蹟やである。

商品としての婦人雜誌ばかり多い中に、算盤玉を拔きにした一つ位かういふ高い主張を持つ婦人雜誌があるといふことはむしろ必然ではなからうか。殊に今日のやうな社會的環境に生きる私たちは、婦人全體の上にもつと〳〵社會意識を喚びさまさねばならぬ事を痛切に思ふ。一口に婦人の解放を叫び、女子教育の普及、參政權、生活改善を唱へる者が、輩出したところで、それが個人意識だけに終始してゐる限り、その恩惠に幸ふものは少數のブルヂョア婦人ばかりである。然しこれらの問題を大衆としての婦人全般の問題として考へるとき私たちは、もつと廣い社會意識を

通して協力して行はれなければならぬものであることに氣がつくであらうと思ふのである。

わが『婦人運動』の存在が少しでもさうした方面に貢獻することが出來てゐるなら、私たちの滿足はこの上もないわけである。考へてみるのに、比較的早くから本誌が取扱つて來た婦人の解放と今の家庭生活にからまる問題、母親扶助法の問題、職業婦人の問題、家庭爭議の問題、消費者としての婦人の問題らがつぎ／＼に世論の焦點になつて、眞面目に廣く一般の人々からも考慮されるやうになつて來た。これは、編輯者の誇りとして大きな喜びに堪えないのである。

初冬漫筆

伊福部敬子

とう／＼中野に移つて來た。

五年もの長い間瀧の川に住みついて、根が生えたやうになつてしまつた私共にとつて、思ひ切つて引きうつるのは大抵のことではなかつた。瀧の川が住み心地がよいといふわけなのでもない、家は小さし、物價は高し、その上に、住みはじめた頃ののびやかな氣持も、今は全く失はれてしまつてゐた。『月と水と夕風のよろしき家』であつたところも、いつの間にか建てこめた庇間から、わづかに空を仰ぎみる位のものになつてしまつた。

けれども、どうしても新しく貸家を探しまはらねばなら

ないことを思ふと、引き移る勇氣はなかつた。

今度も奧むめをさんやその他の引き立てがなかつたら、動けるところではなかつた。

貸家を探しまはるのには、一通りでない骨を折つた。昨日も無駄——今日も無駄、あしたも無駄、しまひには無駄にした日が惜しくなつて、更に根よく探しまはつた。

中野といへば、何かしら大森と同じやうに、東京の郊外でもさつぱりした、比較的智識階級の人々が多く住んでゐるところのやうに世間で通つてゐるのではなかつたらうか私は誰に聞いたともなく、そんな風に思つてゐたのだが。

その中野を歩きまはつて、私は今更にいろいろの事を考へた。まづ所謂文化住宅の多いことである、お臺所の退化である、そして表玄關から窺ひうるベチ・ブルジュア的精神である。

何々式といふのか知らないが、アメリカのかるく晴れた青空の下にこそふさはしい赤瓦の屋根が、いたるところ、重たく濕氣をふくんだ日本のとりわけ濁つた東國の空を映して、いかに不愉快に、いかに非美術的であるかなどは云はないとしても、表ばかりは堂々？としたいはゆる洋館の應接室付きで、その臺所の方は、いかにも申譯的に小さくくつつけてあるのなどは、いかにしても我慢がならないことである。日に幾度にしても、月に幾十回にしても、とにかく日常缺くべからざるでもない應接室を、堂々？ととるからには、何故生活に最も大切な臺所を、あんなに貧弱なものにしておくのだらうか。しかし、これでなくては「文化住宅」ではないのだらう。

アメリカに、アメリカの持つ建築様式があり、ドイツにドイツのもつ建築様式があると等しく、日本には日本の建て方がある。

空氣の乾いた大陸にこそ、あの窓の少いいはゆる西洋館がふさはしいやうに、日本のやうに濕氣の多い國には、必ずひろ〴〵とあけ放つて、風通しのよい、そして屋根の頑丈な家が必要なのである。何百千年といふ長い間に、我等の祖先は、この國に最もふさはしいと思ふ衣食の様式を造

り上げようとしてくれたのである。これは中山啓氏の説明をまつまでもなく、それを氣候風土に何の考慮もなく、いたづらに見様見眞似の洋館なるものを造つて、しかもその洋館が、いかにも物ほしさうな、安メリンス式のものたるや、大金持にはなり得ないペチ・ブルジュアのあきらめ的精神がうかがはれて、むしろ滑稽でもあり悲惨でもあると思ふ。私流の逆説を用ゐるならば、九尺二間の裏店に住むものの方が、まだしもよいではないか。といふのは、彼らは、現在は金がないから裏店にひそんでゐるまでのことで他日志を得たらば、大廈高樓にも住むつもりであらう。彼らいはゆる文化住宅に住むやうな人々は、とても大金持にはなれないから、せめてこれ位で、あきらめよう、といふ心持が、その應接室のそつくりかへつた鎧戸の隙間から覗へるではないか。

さういふ家を守る彼女たちの生活は？　たぶん主婦自らが野菜を炊き肉を焙ることは、いはゆる文化生活に似つかはしくないことなのだらう。その堂々？たる洋館に坐つて片カナの多い本をよみ、来客のためには不親切な店やものを供へるのが、文化的なよい生活であるにちがひない。

長い間、狭い屋内に引つこんでゐた私は、その間に移り變つた世の中を殆ど知らなかつた。まことに雑然とした、まとまりのつかない家並をいたるところに見て、ほんとうに淋しくなつてしまつた。庇の深い、陽あたりののどかな横障子の重い家を、昔ながらの日本風の家を探して、遂に私は探しあてることが出來なかつた。そして私は、いつの間にか、うか〳〵と、實にうか〳〵と、私たちの「日本」を失ひかけてゐるのを氣づいた。

そして、これは現在の思想狀態でもありはしないか。

私は、女たちがよく自分のこの「日本」を堀り出すことにつとめ、そしてその上更によい「日本」をつみ重ねるやうになるといゝと、切に思つてゐる。（不備）

×　　×

黒髪

榎本八十

一人娘の紺屋のお愛さんの縁談が決まつたといふ事を聞いた時、私の耳には當然入るべき噂が、手近の母や女中達から傳はつて來た。

「器量にはまあ大して申分はないし、あれだけ評判の働き手の娘だが、あの髮の毛だけがねえ」

そう云つてお愛さんの爲に惜しんだものは、その縮れた猫つ毛の赤い髮の毛のことだつた。お愛さんは、お針もよく運ぶし、お花も活けるし、その上風采振り闊はず、くる／＼と立働く氣持のいゝ娘だつたが、惜しい事に髮の毛がその通りで、見た眼に、お愛さんといふ人を無慘に打ち壞してしまふ位だつた。

その頃はまだ分け髮なども餘り流行つてゐないので、お愛さんはそんな醜い髮の毛を蔽ひ隱すでもなく不格恰な束髮に結んでゐた、年頃の娘を、なるべく美しく見樣々々としてゐるはたの人の思ふ程、お愛さんは自分の髮の毛を問題にしてゐなかつた。

それでお嫁にもゆく事になつた。先方の配偶者と、見合するでもなく、寫眞の取り交せをするのでもなく、お愛さんの伯父といふ人が仲人で無事に婚禮も濟んだ。

島田に結つたお愛さんの新婚の寫眞は、不思議に、それ程醜くもなかつた。けれど、私はそれを見た刹那、お愛さんのその島田髷に結ひ上げた晴れやかな面影を包む薄い生へ際から、あるふとした不安の滲むのを感じた。

それは何と云つて說明していゝか、もとよりお愛さんに對しては濟まない咄嗟の感情だつたが、最初から餘り無雜作な結婚に怖れを抱いてゐた私の杞憂がこの場合どう思はせたのか、或は、見たところ、何處となく弱々しい夫なる人の風貌に心を惹かれたのか、私にも瞭りそれは解らないものだつた。

結婚後、いろ／＼の曲折もあつたらしいが、それでもお愛さんは、お愛想のいゝ下駄屋のお內儀さんとして過して來た。そして、五年目にやつと丈夫さうな男の子を生んだ。が、その喜びは、又何といふ悲慘な喜びに終つた事だらう。男の子が生れると一緒に、お愛さんの夫なる人は心臟病で急に死んでしまつた。

私はその事を聞いた時思はずどんと全身を衝かれたやうに驚いた。お愛さんの爲に、涙さへ感じた位だつた。ふだん、思つたより病身な夫であるといふ事をそれとなく聞いてゐた私は、お愛さんが泣いても泣いても盡きない、悲しみの底に沈んでゐるであらう事を思つて、胸の痛い思ひまでした。

お愛さんが夫を亡くしてから百ヶ日にはまだ二十日まがあるといふ翌年の正月に、私も生れた許りの一人の男の子を連れて實家へ歸つた時、丁度お愛さんも實家へ來てゐた。私が來てゐるといふ事を知つて、お愛さんはすぐ私のところへ訪ねて來た。親しい友達同志であり乍ら二人共結婚後一度も會つてゐなかつたので、私もなつかしい思ひでお愛さんを迎へた。

大柄な銘仙の袢天を掛けて、赤坊を背負つたお愛さんを目の前に見出した時、私は思はず目をみはつた。お愛さんの元氣のいゝ甲高い聲は別として、娘時代とは全く別人のやうに美しく若々しくなつた容子に、私の視線は忙しく働いたのだつた。

何といふ華やかな變り樣だらう——私はお愛さんを前において沁々と眺め度い氣がした。

あれ程、お愛さんの娘時代を惜しませた髪の毛は、見る影もなくなつて、その代りに、たつぷりとした漆を湛へたやうな黒い艶々しく光つた毛を、大型の丸髷に取り上げて、赤い手柄が艶めかしく引き立つてゐた。

何といふ事だらう、之でもつひ先頃、夫を亡くしたといふ人の有様なのだらうか――私は妙な氣分に打たれてお愛さんの前に近い過去のお悔みをいふ事さへ憚られるやうな氣がした。お悔みを云ふより先きに、生れ變はつたかと思はれる程の、この上ない美しい髪の毛に、讃美の聲が洩れさうになつたのを、私はふつと控へた位だつた。

「本當に、この子が生れないうちならばまだしもと思ふ事があるのですけど、生れるとすぐ入れ代りのやうに亡くなつてしまひましたので一層不憫でなりませんわ」

そう云つたお愛さんは鳥渡顏を曇らしたが、すぐ快活な笑顏になつて他の幼な友達などの噂を初めた。

「誰が爲の黒髪ぞ」私は絶へずそんな氣持に壓されて、お愛さんの髪の毛と、娘時代よりぐつと濕ひを持つた身のこなしなどを眺めた。

夫を失つた悲しみなど、何時までも友の前に女々しく見せてゐないお愛さんの態度にも、心惹かれないではなかつたが、昔のお愛さんがその儘現はれて、沁々とした愚痴の一つも聞かされたら、どんなに私も、お愛さんと同じ涙を流す事だらう――と私は思つた。

粧ひこらしたお愛さんの黒髪も、私の眼にはたゞ痛ましく佗しく映るのみだつた。

その日のお愛さんの甲高い笑ひ聲は、最後まで私の胸をしめつけた。

× × × ×

教育の世紀

第四年 十二月

青年訓練批判號

一部金五十錢 一年前金五圓

論説研究

月例夜話 **青年訓練を中心に**　世紀夜話會

研究・讀物

教育界の新人舊人 **兵庫縣の卷**……此小木牧雨

◇村だより・無軌道・雜誌評論・隨筆・曲譜

本誌は世界新教育聯盟日本支部の機關雜誌であり、日本に於ける唯一の新學校兒童の村の研究報告機關である。本誌編輯同人は讀者諸君が我等の同士たるを信じ相提提して新日本主義教育の建設に努力せん事を期す、

發行所 東京府下池袋一二四〇 振替東京六四二六五 教育の世紀社

月刊雜誌

全人

創刊號發賣

編輯方針

問題の全般に亘つて權威者に執筆を依頼し讀者の感想研究論文の寄稿を歡迎し人生問題の評論隨筆等興趣深き記事を輯錄す

毎月一回一日發行

定價一部 三十錢
半ヶ年分 一圓七十錢
一ヶ年分 三圓三十錢

直接御申込の方は發行所より直送します

急告

全國各書店でも申込受付ける筈ですが萬一その便宜がなかつた場合は書店名を當方へお知せ下さい

文科大學講座
精神科學
全人
イデア

發行所 イデア書院

東京牛込山伏町一四
電話牛込三六五六
振替東京一五四二三

本書の出現に依り我國論を一變せしめた

劃時代的の大快著

本書に依りて陸軍は三個師團の大縮少を斷行し。大正十四年度に陸軍四個師團を廢止したる時は與黨の三派は六個師團廢止を主張したり。斯くまで國論を動かし世を指導せる著書の大識見を見よ。

◎尾崎行雄先生題
◎島田三郎先生序
◎永井柳太郎先生序
◎高野淸八郎先生著

定價金壹圓五拾錢　郵税十二錢
代金引換九錢増

忽ち二版

軍費大整理論

裝幀金文字入美麗
函入上製頗る美本
全一册

著者は久しく新聞社、通信社の主筆、編輯長として現代政治の表裏に精通し軍事財政通の權威者にして、永井柳太郎氏の、序文に記せる如く、屢々有益なる、研究を發表して識者に、注目せられつゝありたり、本書は、軍備に制限を加へず、唯だ軍費濫費の事實を、精細に指摘し、之を整理するのみにて四億の剩餘金を生ず可き空前の大發見也、

軍費四億の濫費を指彈

國を擧げての大問題解決

之に依り、全國の町村長、敎育家、各政黨の、大問題として、大騷ぎし居れる、更に大減税を行ふ財源に充つ可しとなし、世界改造の、眞意義を力說して、義務敎育費全額を、國庫負擔となし、正義人道自由を基調とする、國費を行ふ可しと高唱す、更に附錄として◇加藤憲政會總裁◇高橋前政友會總裁◇德川貴族院議長◇前田前遞信大臣◇山梨前陸軍大臣◇中橋德五郎氏等政界中心人物數十名の表裏な論評して政治の病弊を暴露し、國政の根本的大革新を行ふ可き、改造の一大指針なり

◇（速にハガキにて申込め代金引換送る）◇

發兌　東京市芝區白金三光町二七三　振替口座東京五〇六〇五番　春秋社

大正十三年十一月二十二日 第三種郵便物認可
大正十五年十二月九日印刷納本
大正十五年十二月十一日發行（毎月一回一日發行）

婦人運動

第四巻 第十一號
【定價二十五錢】



復刻版 婦人運動 第2回配本

（第[illegible]巻〜第16巻）

[illegible]

3